



大和総研 調査本部主席研究員

河川 真理子 氏

昨年、一昨年に引き続き、「考働レポート」にコメントさせていただきます。今年はエシカル消費について、関係各部署の方むけの勉強会とダイアログの講師として参加もさせていただき、社内の雰囲気や社員の方たちの意識についても触れる機会を得ました。エシカル消費につながる商品を出すためには、調達から開発、マーケティング、営業まで、「社内のサプライチェーン」全体での取り組みが求められます。ダイアログでは、各分野のキーパーソンの方たちからいずれもとても前向きな話をうかがえました。エシカル消費はこれからの消費社会を動かす重要な視点と確信していますが、エシカルな消費者はまだ少ないのが現状です。企業理念「生活者へのお役立ち」を実現する一つの重要な戦略として、消費者の半歩先からエシカル消費を促すような商品開発やマーケティングを期待しています。

なお半歩先からの取り組みは、国内向けだけではありません。アジア事業の展開においても是非取り入れていただきたいです。西村社長は「その土地固有の文化や習慣を尊重し、現地の生活者を理解したうえで、多くの人々のニーズ・ウォンツを満たす商品を開発していくことが、『商品を通じたお役立ち』につながると考えます」と述べられ、環境の取り組み事例として、返品削減について触れておられます。アジアの展開ではさらに、消費社会にインパクトのある取り組み“生活者の立場からの容器ごみの削減やリサイクルシステム

構築など”も日本の経験を活かした貢献をお考えください。また、社長は「世界に先駆けて新たな分野にチャンレンジすること」を強調されています。今後期待したいエシカル消費については、日本で広げてからアジアに展開、ではなく同時並行で取り組まれてはどうでしょうか？

なお、昨年のダイアログテーマでもあった人財育成では、早速若手社員の海外トレーニー制度をスタートされています。外部からの働きかけを行動に移す姿勢は企業理念とも合致しています。将来を見据えて、今考働できる人財育成につながるものと期待します。

また、報告書の中での取り扱いは小さいですが、私が注目したのは「動物実験禁止」です。昨年までは、禁止に向けて代替法の開発をしているという報告でしたが、今年は「動物実験は実施しておりません。今後も動物実験を行わない」と明言されています。動物実験は国内ではあまり注目されませんが、欧州などでは最重要のCSR課題です。また新製品開発に与える影響が大きいことから、全面禁止に踏み切る日本企業はわずかです。経営上も重要な決断をされたと拝察いたします。NPOからも大変評価の高い取り組みですので、積極的に情報発信されたら良いと思います。

なお、昨年から提案している水に対する取り組みや、化学物質安全管理については、工場における環境マネジメント的な取り組みが中心のようです。消費者の手にわたった製品レベルでの水管理、化学物質の利用状況など、これらはこれからのエコ製品のクライテリアとして注目されると考えます。使って安全で、エコで、かつ生活者の生活に潤いをもたらしたり、役に立つ。そうした製品をこれからも生活者の半歩先から提案し続けられる、持続可能な会社としてのステップアップを期待しています。

読者の皆様へ

マンダムグループは、多様なステークホルダーの皆様に対して、どのような「お役立ち」ができるのかを考え、個性豊かなオンリーワンカンパニーとして社会的存在価値を認められ、社会から生かされている企業であり続けたいと思っています。

基本理念である「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」の具現化に向け、一人でも多くの生活者に魅力ある商品・サービスを届けることを使命とし、多くの人々のニーズ・ウォンツを満たす商品を開発しなければならないと考えています。

今年も有識者をお招きし、ステークホルダー・ダイアログの開催と第三者意見において、エシカル消費に向けた取り組み、商品の開発に向けた貴重なご意見をいただきました。企業の社会的責任が高まる中、CSRへの取り組みを経営課題と位置づけ、品質保証・環境対策の継続的な強化と、良き企業市民としてグループ全体で推進すべき社会貢献活動を実践できる体制づくりに取り組んでまいります。



執行役員
総務部・環境推進室・
品質保証室・
お客さま相談室 担当
兼 総務部長

田中 晃